

令和6年度第8回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度第8回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和7年3月21日（金） 午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関市役所 2階 大会議室A
- 4 出席者
 - (1) 委員 阿部利彦委員、泉賢司委員、伊藤拓也委員、岩渕一司委員、大内早智子委員、小野寺忍委員、加藤沙央里委員、小岩邦弘委員、西條恵美子委員、齊藤裕美委員、佐藤弘子委員、東海林訓委員、菅原美津代委員、菅原秀文委員、徳谷喜久子委員、船山賢治委員、星義弘委員、吉田捺委員、吉田正弘委員
 - ※欠席者 宇津野泉委員、及川恵理子委員、小山亜希子委員、佐々木承子委員、千田久美子委員、千田好記委員、千葉真美子委員、藤本千二委員
 - (2) 事務局 今野薫市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、小山隆之政策企画課課長補佐兼政策推進係長、佐々木さやか政策企画課主任主査、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事
 - (3) 一関市総合計画策定支援業務受託者 株式会社邑計画事務所 及川一輝取締役

5 内 容

(1) 報告

令和7年度予算の概要、総合計画実施計画（令和7・8・9年度）について

(2) 議題

ア 総合計画策定体制について

イ 総合計画前期基本計画体系案について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 1人（うち報道機関 1社）

8 市長公室長挨拶

前回の審議会まで皆様に議論いただいた一関市総合計画基本構想が決定した旨の報告をさせていただきます。

委員の皆様には、基本構想を令和7年2月通常会議に議案として提出した旨を文書でお知らせしていたところであるが、その後、令和7年3月13日に議会の最終日を迎え、議決をいただき、基本構想が決定した。

議員全員協議会の場で事前に説明を行っていたこともあり、議員からの質疑などは特

になかった。

じっくりと審議いただき、このような基本構想が完成したことについて改めて御礼を申し上げます。

9 小岩会長挨拶

市長公室長から報告があったとおり、基本構想が決定したということである。改めて感謝申し上げます。

本日から、前期基本計画の検討に入るので、引き続き忌憚のないご意見をいただきながら進めていきたいと考えている。

短い時間での議論となるがよろしく願います。

10 報告

令和7年度予算の概要、総合計画実施計画（令和7・8・9年度）について事務局から資料No.1-1、1-2に基づき報告を行った。

質疑については、会議終了後にオンラインフォーム等で受け付けることとした。

11 議題

(1) 総合計画策定体制について

事務局から資料No.2に基づき説明を行った。質疑なし。

(2) 総合計画前期基本計画体系案について

事務局から資料No.3-1、3-2、3-3、3-4に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

会 長 特に、資料No.3-4と資料No.3-1のワークショップについて意見をいただきたいと思う。

委 員 資料No.3-1に「指標を設定」とあるが、資料No.3-4の「目指す姿」を指標とするものか。

事務局 資料No.3-2に中目標ごとの個別ページのレイアウトイメージがあるが、この中に「成果指標」を示している。

その上には「目指す姿」を示しており、「目指す姿」では文章で、「成果指標」では数字で、目指す方向性を示していきたいと考えている。

委 員 目指す姿などがある程度決まった時点で指標の案が出てくるということか。

事務局 そのとおり。6月の審議会において、目指す姿等を踏まえた指標の案を示し、委員から意見をいただきたいと考えている。

委 員 大目標の指標を出生数などとすることもあり得るか。

事務局 具体的な検討はこれからではあるが、出生数なども指標の候補になると考えている。

委員 大目標「しごとの可能性が広がるまち」の下に、中目標「専門的人材の育成」があり、その現状として「まちに必要な機能である医療や福祉を維持し、誰もがこのまちで医療や福祉に不便を感じずに暮らすことができる」とある。

この現状は、大目標「安全・安心を感じられるまち」の下にある中目標「医療、福祉の体制の確保」のところにあるのがふさわしいのではないか。

事務局 本日の審議会では、今のようなご意見を頂戴したいと考えている。

現計画では、「専門的人材の育成」と「医療、福祉の体制の確保」はどちらも「医療」というページにまとめられていたが、次期計画では暮らしの視点で分解して再構成していくこととなる。

資料には事務局の再構成案を記載しているが、まだ見えていない部分が多くあるので、将来像や基本目標の方向性と合っているかという視点でご意見をいただければと思う。

委員 「現状」を数字で表しているものがあるので、「目指す姿」も数字を含めた表現としてはどうか。

委員 1点目はコミュニティ活動の支援についてである。現状として「まちづくりは、市民と行政との協働により進めるものと考えている人が多く、協働のまちづくりの考えが定着している」とあるが、地域協働体の意見を行政運営に反映させる仕組みが弱いと感じている。

2点目は公園についてである。点検をしないと使えない状況の遊具が多数見られるので、こどもの遊び場の確保については対策が必要であると考えます。

3点目は働く場の確保についてである。人口減少対策としては、働く場の確保が重要であるので、企業誘致をさらに進めてほしいと思う。事業承継を支援する仕組みの充実も必要である。

4点目は結婚支援についてである。結婚支援に携わっているが、会員登録者が少ない状況であり、登録者を増やすための対策が必要だと考える。

委員 中目標「商業、観光業の振興」の中の「商店街の振興、活性化」の視点で、目指す姿が「魅力的で多様な店舗がそろそろ、歩くだけでも楽しめる賑わいがある商店街となり、様々な人が集まる場となる」とあるが、購入方法にデジタルとアナログが入り混じる時代には合わないと思うので考え直したほうが良い。

委員 「景観保全」や「自然環境・生態系などの保全」に関して、道路沿いに生える外来植物等の排除についても現状に加えていただきたい。

委員 最終的には、中目標ごとに1つの目指す姿にまとめていくとのことだが、視点が多岐に渡っていてまとめるのは大変だと思う。これからはやるべきことを

絞っていく必要がある。

また、「保育所・幼稚園・こども園」の現状の中で、「多様な保育ニーズに対応できる体制となっている」とある一方で、「受入れ可能な施設が限られている」ともあり矛盾しているように思う。計画全体で見たときに、矛盾がないように調整する必要がある。

事務局 7月の審議会まで検討を進める中で精度を上げていきたいと考えている。

委員 「省エネルギーの取組」の現状に「第6次エネルギー基本計画」とあるが、令和7年2月に「第7次エネルギー基本計画」が閣議決定されたので、新しい計画に基づいた目指す姿としてほしい。

委員 「公園の整備」が中目標「子育ての支援」の中に入っているが、公園は子育て支援だけではなく地域コミュニティにとっても重要な役割を担うので、親子だけではなく、あらゆる人が使うという視点が必要である。

また、中目標「こどもの健やかな育成」に関して、小学校までは支援が手厚いが、中学校になると授業に追いついていけないなどの理由で学校に行けなくなるという話を聞く。それが、ひきこもりにつながり、自立が難しくなっていくので、ひきこもり支援なども現状に入れていただきたい。

さらに、埼玉県八潮市で起こった事故のこともあるので、下水道管の整備などインフラの充実に関する記載の追加について検討をお願いしたい。

委員 具体的な施策が見えてこない目指す姿も見えてこない。

兵庫県明石市は、人口の増加率が高い。政策のテンポが速く、他の市町村に先駆けた新しい取組を行っている。

何かを変えようとするのであれば、もっと具体的に踏み込んで進めていかなければならない。

委員 「資格や技能取得の支援」の現状に「事業者が求める技術や資格・業務内容に対し、求職者のスキルや働くイメージにずれが生じており」とあるが、この「ずれ」が何のことを指すのか、もう少し分かりやすく記載してほしい。

委員 現状はどうしてもマイナス面が多くなってしまいが、これが解決されれば、一関市が良くなるということだと思う。すべてが解決できるわけではないと思うので、一関市の将来像に合わせて重点的に取り組むことを決めていければ良いと思う。

目指す姿の書き方について、対象者が5年後にどのような状況になっていることを目指すのかを書くことが必要だと思うので、全体的な統一をお願いしたい。

会 長 ワークショップについてもご意見をいただきたい。

委 員 ワークショップはテーマを絞って意見をもらうのか。

事務局 今回のワークショップは、資料No.3-1に記載のとおり、対象者を絞って開催したいと考えている。対象者を絞った背景としては、例えば子育て関係であれば、こども計画を策定する際に現状把握をしっかりと行っているが、外国人などは、もう少し現状を把握したいと考えるため対象として設定した。

ワークショップのテーマも関係機関の皆さんに相談をしながらそれぞれの対象者に合った形で設定したい。

委 員 出生率を上げることを考えるのであれば小さいお子さんがいる世帯を、移住者を増やしたいのであれば移住してきた人を、外国人を増やしたいのであれば外国人を集めるなど、一度に全員を集めるのではなく、対象者別に開催したほうが良い。労働者に聞くよりは、誘致の対象となる企業に聞いたほうが現状の把握ができそうであり、ジャンルごとに対象者を精査する必要がある。

委 員 分野ごとのワークショップと誰でも参加可能なワークショップのどちらもあれば効果的だとは思いますが、分野を絞るのは大変だと思う。

委 員 一関市が、この5年、10年の間に何をやりたいのかが重要であり、そこに焦点をあててテーマ、対象者を設定してはどうか。

目的を明確にしないと参加した人も何を話せば良いのか分からなくなってしまう。

委 員 話が戻るが、基本計画で設定する指標は「出生率で何%を目指す」や「要介護の高齢者を何人減らす」など、踏み込んだ設定をするのか。数値で目標を設定できるものは、設定したほうが良いと思う。そして、その上で何を行う必要があるかという施策の組立てをすれば明確にやりたいことが伝わると思う。

事務局 数値で進捗の管理をしていくことは必要だと考えており、数値で測れるものは設定していきたい。こういった指標が適切かということは、6月の審議会で案を示したいと考えている。

また、ワークショップの対象者案を外国人や外国人支援者、高等教育機関の学生としたことについて、補足で説明する。

資料No.3-3の人口の推移にもあるとおり、令和4年以降、外国人転入者が増加に切り替わったという状況がある。外国人に選んでもらえるまちというのも市の方向性の一つであり、様々な方法で意見を集めているところではあるが、5年後、10年後を考える上で、もう少し現状を集めて、幅広い視点で施策を考えていきたいと考えている。

高等教育機関の学生については、若者の地元定着という市の課題を考えたときに、高等教育機関の学生のまとまった意見が見えてきていないという現状を感じているため、今後進んでいく方向性を見出せるようなワークショップとしたいと考えている。

委員 高校生や大学生の意見を聴くことは、非常に効果があると思う。地域のイベントに中学生や高校生が参加すると、地域の良さを自分なりに考えることができる。このワークショップも、一関市のまちづくりの方向性を伝えた上で、話をしてもらおうと非常に良いと思う。

委員 この計画を見ても若者は何をしたら良いのか分からないと思う。

せっかく計画を作るのであれば、市民として、一関市で働く者として何ができるのかを分かりやすく伝えていく必要がある。

一関市に残りたいという思いがあっても、夢ややりたいことがないと残らないと思うので、市が示す施策や目標に対して、自分たちには何ができるのか、ワークショップで意見をもらうのもおもしろいと思う。

委員 ワークショップは意見を集める方法として効果的ではあると思うが、現実的には何回もできるものではないと思うので、早めに分野を絞っていく必要がある。現状が分かりにくい分野に絞っていくのが良いと思う。

また、資料No.3-4「学校教育の充実」について、目指す姿の「すべての子ども・学生が、充実した学びの環境の中で、周囲と関わりながら知・徳・体のバランスの取れた成長ができる」は少し広すぎる気がする。

さらに、令和6年度から学校運営支援協議会を各学校に設置することになり、地域との結びつきを重視してきているところなので、その視点も含めていただきたい。

委員 若者世代の声は重要だと思うので、目指す姿に反映していただきたい。

委員 ワークショップはどのくらいの規模を想定しているか。

事務局 対象者を設定した後に、その対象者に応じた適正な規模を関係機関と相談しながら決めたいと考えている。

委員 高校生を対象とした場合、特定の学校の生徒のみ集めるのか、それとも市内のすべての高校から集めるのか。

事務局 具体的な検討はこれからであるが、昨年、基本構想策定のために行ったワークショップでは市内すべての高校に声を掛けたところである。

委員 外国人は、一関市が生まれ育ったところでないからこそ様々な視点の意見が聴けると思うので、単なるお悩み相談にならないよう目的を定めてほしい。

ワークショップを何回もやるのは現実的でないと思うので、2回程度の開催が適当と思うが、対象者ごとに分けて実施したほうが意見が出やすいと考える。

また、旧一関市内の高校生と旧東磐井地域の高校生では、育った環境が異なるので、分けて意見を聴くのもおもしろいと思う。

委員 外国人も、お金を稼ぎに来ている人や勉強をしに来ている人など状況が様々であるので、そういった人たちを混ぜてワークショップをすると意見がまとまらないような気がする。外国人の中でも、対象者を絞ったほうが良いと思う。

事務局 どういった方を対象とするかについても、内容に合わせて絞っていきたい。

委員 資料No.3-4については、目指す姿を具体的にしていけるか、具体的な部分は施策の中に盛り込むか、方法は様々であるが、分かりやすいような形でまとめていただきたい。

ワークショップについては、国によって考え方が変わるところがあるので、偏りがないように参加者のバランスを調整することが必要だと思う。

委員 今後、成果指標を考えていく際には、現計画の指標のような「進捗率何百%」とならないよう検討してほしい。

委員 外国人労働者を増やすことは良い取組だと思うが、日本で少し稼いですぐに国に帰るといった人たちをワークショップに入れるのは、総合計画策定のためのワークショップとしてあまりふさわしくないと思う。

委員 私が所属する団体は、高齢者ばかりで、会議でも若い視点の意見が出てこない。総合計画審議会から依頼があって意見を出すのではなく、若い人たちから、積極的に意見を発信してほしい。

委員 目指す姿は今後、修正されていくのか。このような言葉を入れてほしいという意見は反映されるか。

事務局 目指す姿は、委員の皆さんの意見を踏まえて今後精査していく。

本日は会議の終了時間が近づいているので、会議終了後にオンラインフォームで意見を提出いただきたい。

12 担当課 市長公室政策企画課